

第3回学校運営協議会 議事録

日 時：令和3年3月25日(木) 10:00~12:00

場 所：本校セミナー多目的室

司 会：山田 尚子 (副校長)

記 録：藪崎 雄一 (広報創発G)

出席者：井上委員 郷原委員 小池委員

佐々木委員 金森委員 熊谷委員

竹原委員

勝股 山田 神林 石坂

大知 宮澤 阿部 梅本

堀 平間

欠席者：辺見委員

1. 校長より

コロナ禍での教育活動

・短縮授業，時差登校の実施

従来、8：35 始業、60分授業で教育活動をしていたが、通勤・通学時のラッシュを避けるため、9：05 始業、55分授業とし、感染症対策に留意した日程とする予定である。

・行事等

校外学習や体育祭、1学期球技大会等は中止。

2学期の文化祭は時期を例年より遅くして10月に実施(一日のみで外部見学はなし)。

卒業式は3月2日に実施。

2学年修学旅行の中止。

・入試について

願書受付は来校せずに郵送による願書受付。合格発表もオンライン発表を行い、密を避けた。

2. 各グループより

(1) カリキュラム G

・コロナ対応

インターネット配信の課題学習など、新たな学習支援を工夫し、生徒の学習意欲を高めた。

全職員、必ず1回はオンラインを利活用し、生徒と双方向でのやり取りをした。

スタディアプリを紹介し緊急事態宣言下の学習を支援した。

・外部講座

アントレプレナーシップの授業アンケートでは8割の生徒が達成感を得たとしている。

Add-on 講座の受講アンケートも高い評価であった。

【質疑応答・意見】

コロナウィルスの影響により、オンラインでのコミュニケーションの必要性が問われた。今後も同様にオンラインの授業が必要になると思われる。

I C Tが利用できないことで生徒に不利益が生ずる可能性があるのではないか。Wi-Fi 環境が整っていない生徒へのサポートはあるか。

⇒Wi-Fi ルータや Chromebook の貸し出しを行った。

教科横断的、教科全体でも探求的学びが根底としている。引き続き、質を高めた授業をしていただきたい。

(2) 生徒保健 G・生徒活動支援 G

・今年度の概況

生徒の悩みや家庭状況などの問題に対し、面談や教育相談アンケート、家庭訪問、ケース会議などにより、組織的に生徒を支援した。

S N Sトラブル・生徒間トラブルが数件発生し、継続的かつ丁寧な対応を行った。

バス利用について。登校が可能になってから、近隣からの苦情があった。登下校指導・バス乗車指導により、丁寧に対応した。

・校内でのコロナ対応

健康観察を実施(体温を毎日記入)、消毒作業を教職員で実施(現在も)

・部活動

休校と活動時間の制約もあり、加入数の向上は実現しなかったが、各活動は適正に行われた。部活加入率は70%ほどである。部活動内の人間関係もおおよそ良好である。

・行事

体育祭は中止。文化祭も慎重に検討し平日1日、規模を縮小しての実施、企画内容や食事場所などの工夫、ステージ動画配信を実施した。生徒からは一定の満足度を得た。

【質疑応答・意見】

イベントにあたって。オンラインでできることは多くある。(相模女子大学では) 様々なオンラインイベントを行うことができた。クラウドファンディングで学生達が資金集めをし、企画実施した。いろいろな手法を追求し、積極的に生徒の活動を支援すべきと思う。

前の公園など自治体の持つスペースを部活動で積極的に活用してほしい。

バス利用についての苦情があったが、その件以外について苦情は減少している。

部活動の加入率、活動の中でトラブルは起こっていないか。

⇒おおむねうまく行っていると考えている。

(3) キャリア支援 G

・今年度の概況

昨年度は感染症の影響で現役志向が強かったが、今年度はその傾向が変化した。

進路実績は昨年度と同程度であるが、合格数は今年度の方が多くなっている。

今年度は昨年度にはいなかった民間企業への就職者が出た。これは生徒本人の強い希望で、その希望を実現した形となった。

リモートでの面接もあるため、環境を整えた。

【質疑応答・意見】

生徒自身の希望の進路に進めているようである。先生方の努力の賜物かと思う。

生徒が自分の将来を考えてその進路に進めるよう支援をお願いしたい。

コロナ禍ではさらに早期からの情報提供による支援が必要。

3年間の明確なビジョンを持っている生徒はどれほどいるのか。

⇒講師を招いて講座をする、適性検査を利用するなどして、生徒が自身の将来について考える機会を設けている。生徒の多くは長子、1人っ子であり、保護者にとっても初めて18歳の子を持つ。そうした部分にも配慮している。結果として、大きく乖離した進路にはならないと考える。

青葉区にリモートワークを活用できる環境を持つ場所がある(「あおばコミュニティー・テラス」)。

Free Wi-Fi であるので、面接等に利用してほしい。

(4) 広報・創発 G

・広報活動

コロナ禍で学校説明会を3回(都筑公会堂2階・本校1回・合計1400名来校)実施することができた。

また、学校見学会(8月の土曜日4回と12月5日)も実施することができた。Twitter等のSHSを活用し、学校の情報を定期的に伝達することができた。

【質疑応答・意見】

連携している地域とはどこのことか、具体的かつ明確に明示すべき。

カリキュラムと地域がどのようにつながっているか、委員とのさまざまな関わりなど、評価のわかるものとして具体的に明記すべき。

(5) 学校管理 G

・防災

情報伝達訓練(5月20日)、シェイクアウト訓練(8月31日)、地域防災訓練(10月5日)教職員対象 AED 訓練を実施。防災意識をより高めた。

【質疑応答・意見】

情報発信としてのHPについて。週1回は更新して、更新頻度のような取り組みの評価のできる数値を示すべきである。

上位に出るのは、偏差値ではなく質の高いHPである。そのためにも更新をまめに行ってほしい。

⇒引き続き、情報発信をしていく。また、できる限り更新を多くし、数値等実現につなげる。

YouTubeの学校説明ビデオのアクセス数1万回以上。県で上位である。

AED講座は生徒も参加させた方が良い。部活などで不測の事態があった場合、先生だけでなく生徒にも対応できるようになれば。

⇒体育やLHRの時間を利用し対応できるようにしたい。保健の授業で実習を行っている(今年度は実施できず)、また部活動単位で養護教諭を講師に講座を行っている。

AEDの設置場所を郵便局に掲示している、活用してほしい。また、どこにAEDがあるかを知り、対応できるようにしていただきたい。

3. 全体を通して

井 上：学校が学問を修めるだけでなく、多面的な学びに取り組んでいることがよく分かった。

郷 原：生徒に対し、コロナの影響のフォローをお願いしたい。

開かれた学校、多用した考え方、体験の提供が大切。生徒にとって良い刺激を与えてほしい。

小 池：同じ地域でも、学校取組がわからないところもあったが、改めて生徒が良く頑張っていることが分かった。

佐々木：社会貢献の意識の高い、良い生徒を育成している。

学校の中を聞いて良かった。

竹 原：コロナ禍のみならずカリキュラム改編などの面で、現在は明治維新、戦後に並ぶ大きな転換期であると思う。いかに努力をするか、歩みを止めないでほしい。生徒たちが自分の人生を切り開けるようにしてほしい。

熊 谷：新しい生活様式の中で、PTA活動も今後の活動のあり方を学校と連携し考えていきたい。